

北方町政策審議会 グループ協議 会議要旨

グループ名	グループ 1	出席委員数	5 / 5 名
日 時	平成 2 8 年 9 月 3 0 日（金） 1 9 時 0 0 分～ 2 1 時 0 0 分		
場 所	まなびの広場		

【協議事項】（テーマ等）
「不登校の現状と学習支援について」
適応指導教室「大空」指導員 大江 俊夫さんよりお話を聞く

資料：「適応指導教室 大空 Vol.10 No.7」

大江指導員のお話の内容（順不同）

- ・ この適応指導教室は、10 年前から町立図書館の 2 階に開設している。先に岐阜市、瑞穂市に設置され、北方町も開設することになった。現在は 6 人の生徒、児童が通っている。
- ・ 今「大空」へ来ている子は、中学生男子 3 人、女子 1 人、小学生男子 2 人の計 6 人。
- ・ ナイーブな子で、友達とのやりとりで傷つきやすい子が多い。小学校のときは、保健室や図書室にいて、中学生になってから不登校になる子もいる。
- ・ 気のあわない子とのトラブルが引きがねになったり、プレッシャーに押しつぶされてしまう場合もある。
- ・ 生まれつき人との付き合い方が、苦手な子やまじめな子もいる。
- ・ いじめられていることを親には言えない。知られたくない。また、自分で認めたくないという気持ちが子どもにある。
- ・ この「大空」へ来る子の多くは、「自分が不登校だと言われたくない。」「学校の友達がいさつしてきたり、話しかけてきても緊張して応えられない。」「適応指導教室「大空」に通っていることを誰にも知られたくない。」「と思っている。

- ・不登校の原因がはっきりしてないのに、親のしつけが悪いのではないかとか周りの人から言われたり、そのことで夫婦喧嘩になったりすることがある。両親や教師など大人への人間不信が原因の一つになったりすることもある。
- ・心が疲れていて、人の目を気にしなくてもいい夜にゲームをしてゲーム中毒になり昼夜が逆転し、学校にいけなくなることもある。
- ・適応指導教室では、自分がやってみたいことをできるだけ自分で決めて取り組ませて、エネルギー（学校に通う、規則正しい生活をする）を貯めることを心がけて指導している。
- ・担任の先生の対応も重要であると考える。
- ・卒業した生徒が、「担任の先生と朝電話をする約束をしていたが、学校へも大空へも行かない日が続くとますます電話しづらくなった。その時は辛かった。」と当時のエピソードを話してくれた。
- ・担任が親の気持ちに配慮したり、親が担任に協力的になったりするなど、子どものためにいい関係を築いていくことが大切。
- ・適応指導教室「大空」に行ける子は、まだいいほう。
- ・相対的には、不登校の子が増えている印象。
- ・義務教育を卒業した後の受け皿がないことも一つの大きな課題である。北方町にそれができれば素晴らしいことだと思う。

次回のテーマ

「グループ1協議の総括」～発表に向けた準備～

－次回開催予定日－

10/28（金）19：00～ まなびの広場

※発言順にこだわらず対応する意見については、まとめて下さい。

発言者名は未記入をお願いします。